



生野高校
77期 1年

学年通信 悉しつ有

第4号 (2022年5月13日)

大阪府立生野高等学校
大阪府松原市新堂1-552
072-332-0531(学校代表)
072-332-0711(学年直通)

【学年通信は保護者の方にも見せてください】

◆スタディサポートをふり返って

5/12(木) LHR は、スタサポの結果返却と進路の講演でした。それぞれ自分の現在地や、どこができていた・できていなかったのか——を必ず確認しましょう。まずは得意な教科を見てみましょう。自分の得意な教科はどれでしたか？とところで、得意教科の中にも、正答率が低い単元がありませんか？逆に不得意な教科であったとしても、全ての単元が解けていない訳ではないと思います。得意・苦手教科の中で、“この部分は比較的解けている”という単元と、そうではない単元があるはずで。では、それらの違いは何でしょうか？あるいは、今回解けている単元も、実は何となく解けているだけで、類題に挑戦してみれば解けない可能性がありはしませんか？こうした部分を考えると、弱点克服の手がかりがありそうです。“ここは正答率が高い／ここは低い…その差は何？”をしっかりと考察しましょう。そして、考えること＝言語化することです。“思っている”だけでは、結局はその場限りになってしまい、明日には霧散してしまうものです。キーワードや箇条書きで構いません。具体的な言葉にしてスケジュール帳に書き留め、時折見返しましょう。

今回の出題範囲は中学校の内容ですから、1年スタサポで解けなかった部分は、中学の学習内容で穴があいてしまっている部分ということです。高校の学習内容は中学の内容に積み上がっていくので、土台が穴だらけであれば、高校の学習内容が砂上の楼閣となることは必定です。いま学んでいる内容を無駄にしないためには、実はここまでの基礎固めが大切なのです。ちなみに、穴があいてしまっている部分は人によって違います。それを具体的に示しているのが巻末の「弱点克服ドリル」です。学習内容の穴を埋めて基礎固めするのが今回のドリルの目的ですから、それ相応の取り組み方でのぞんでくだ

さい (つまり答えを写すなどということ)。

スタサポ弱点克服ドリル

5月23日(月) 提出〆切

もう一つ、マーク式の問題なので、自己採点と実際の結果がずれているということはないと思いますが、もしズレが生じていたならば、それはマークミスや自分の回答の記録ミスに由来するものです。十分に注意しましょう。

◆今からでも解きなおそう！

改めて模試の問題を解きなおしたら、全問正解できますか？試験には時間制限があります。時間が足りなくて解けなかったのか、時間が無制限であっても解けなかったのか——それによって、対策は異なってきますよね？前者ならば、解くスピードの問題。後者ならば、そもそも解くための学力が不足している問題。いま一度、時間無制限で解きなおしてみ、どちらなのかを見極めましょう。解くスピードをアップするためにはどうすればいいのか、解くための学力をつけるためにはどうすればいいのか——それを、各授業担当の先生に訊いてみてください。

これらの話は、理屈としては分かっていることでしょう。あとは皆さんが実際にやるか・やらないか——の問題です。生野生は、計画は立てられるが、それをなかなか実行にうつせない傾向があると、校長先生の話にもありましたね。その傾向をぜひ覆してほしいものです。

この学年通信のコンセプトは「悉有(仏性)」。一切の生とし生けるものは、悟りに達し仏となる本性を備えている——という考えを援用しています。生野高校に入学してきた皆さんには、必ず“もっているもの”があります。勉強に対しても、そしておそらく勉強以外のものに対しても、77期の全員に何かしらの“もっているもの”があります。但し、それらが開花し結実するためには、相応の研鑽が不可欠なのです。

◆スケジュール帳にどんどん書こう！（その1）

先ほどの「スタディサポートをふり返って」の部分で「具体的な言葉にしてスケジュール帳に書き留め」しましょうと述べました。皆さん、スケジュール帳を活用できていますか？授業を担当している複数の先生から、「今年の1年生は忘れ物が多い」という話を聞いています。次の時間に持って来るようにと言われたワークやChromebookを授業に持って来ていない話、途中で終わった前回の授業プリントを次の時間に持って来ていない話、また、ラッシュガードの購入申込で、用紙の紛失やメ切当日の忘れなど内容は多岐にわたります。

次の授業はいつで、その時に何を持ってこなければいけないのか。この申込みのメ切はいつなのか——全てを覚えておくことは難しいと思います。難しくなった理由の一つは、授業の展開数が中学校に比べて大幅に増加しているからではないでしょうか。国語は現国と言文の2展開、数学も2展開、英語は3展開？理科も物理・化学・生物の3展開、社会も歴総の世界史／日本史の2展開。5教科だけでも12展開！ここに保健・体育・情報・芸術・探究を加えて17展開——これを全て頭で覚えて用意するのは、なかなか難易度の高いタスクです。全部頭で覚えて忘れ物が無いようにせよ——と無理なことは言いません。しかし、頭で覚えて忘れないようにすることが無理であるならば、どうすればこの問題をクリアできるのか工夫を凝らすことは可能なはずです。次の授業までに何をしておかなければならないのか（宿題）、何を覚えておかなければならないのか（用意）——をスケジュール帳に記録して、毎日見返して対処すればいいのです。中学校まではできていたからといって、高校でも同じようにできるとは限りません。できている人は、そのやり方が自分に合っているので継続して構いません。ここまでに失敗した覚えのある人は、できるやり方に換えてみてください。明日までに必要なものは何か、今週中に必要なものは何か、この先2～3週間や今月中に必要なものは何かをスケジュール帳で把

握する——中学4年生のやり方ではなく、高校1年生のやり方に換えれば、問題を解消に近づけることができますよ。

◆スケジュール帳にどんどん書こう！（その2）

平日…今日帰ったら何をやっておくべし？

休日…この週末は何をやっておくべし？

（どちらも勉強的な意味で）

自主学習の管理も、スケジュール帳で扱うことをお勧めします。平日・休日に、それぞれ何をやっておくべきなのか。今日・明日にやっておくべきなのか、今週中にはやっておくべきなのか——キーワードや箇条書きで充分です。具体的に書くことが大切。そして、取り組んだら取り消し線で消す。残ったものが、いわゆる“積み残し”です。この積み残しを解消する機会を、どこに設定するのか。普段の生活の中で、どうしても積み残しは発生しがちですし、それを無理に全部片付けようと、しんどくなってしまうかも知れません（勿論、頑張れる人はどんどん片付けていきましょう）。一週間のどこかで／あるいは10日ごと／半月ごと——と、どこかで積み残し解消のための機会を設定しましょう。いつにしますか？どの頻度にしますか？スケジュール帳に書き込んで、実行してみてください。何回かやってみて、余裕がありそうなら頻度を上げられそうですし、とても無理な計画だったということなら、もっと余裕を持たせてみましょう。いずれにしても“書いてみて”“やってみて”初めて掴める感覚です。ここでもまた、実際にやるか・やらないかが、事の成否の鍵を握っているのです。

◆当面の予定

5/17(火) 体育祭準備・球技大会

18(水) 体育祭

19(木) 大掃除

26(木) 防災退避訓練

27(金) 試験2週間前突入！

30(月) 検尿二次②